

No.057 京王バス中央(株) 【輸送モード:バス】

「新しい組織体制づくり、お客様目線と双方向コミュニケーションが安全意識の風土を構築する」

1. 概要

企業情報

所在地	東京都府中市府中町 1 丁目 9 番地		創立	2003 年		
年 商	約 22 億円	人員数	232 名 (運転者 220 名含む)		資本金	6,000 万円
拠点数	本社及び府中営業所の 計 2 拠点	車両等	135 両(うち大型 : 71 両、中型 : 16 両、 小型 : 8 両、コミュニティバス :31 両、貸切 : 9 両含む)			
事業内容	一般乗合旅客自動車運送事業、一般貸切旅客自動車運送事業他					
輸送品目	乗合及び貸切旅客等					
取引先	一般旅客他、高校・中学他					

組織的安全マネジメントの特長

京王電鉄バス(株)から分社した際、新しい人材を新たな雇用条件で採用し、組織体制を新たに構築した。公開査定制度を採用し評価の公平性、透明性を図ることで、被評価者が目標達成を目指したスキル向上に繋がっている。

Iプロジェクト(みんなで創る京王バス運動)として投稿箱を設置し、お客様目線の意見を出す投稿制度では、これまでに 1,000 件以上の意見が出され、一つ一つの意見に各担当者が回答している。

メーカーと共同開発した運転訓練車により、急発進、急制動やアイマークレコーダーによる目線のデータ等を用いながら各営業係(乗務員)への個別指導が行われている。

調査者所見

古い風土を脱却するために、新しい人材を新たな雇用条件で採用し、組織体制を新たに構築した。新人営業係(乗務員)への徹底した研修、指導が、現在の安全風土のモトになっている。また、運転訓練車を活用した個別指導や投稿箱の設置により、お客様目線での意見が数多く出され、ひとつひとつの意見に回答する風土が、営業係(乗務員)にもお客様目線へ立つ意識を浸透させ、安全運行の確保につながっている。またグループの組織力を活かした 5 年間の義務教育制度が印象的であった。

調査情報

調査日	2010 年 3 月 15 日	訪問先	本社及び府中営業所
対応者	代表取締役、取締役府中営業所長、副所長、京王電鉄バス営業部安全推進・サービス向上担当課長、課長補佐、主任、担当者(京王バス東(株))		

(注) 企業情報等の内容は調査日を基準日とした内容である

## 2. 会社の概要、創業からの成長経過

2003年5月に京王バス中央(株)が設立され、同年10月から京王電鉄バスの一部路線を引き継ぎ京王バスグループの1社として運行を開始した。

京王電鉄バスグループには京王バス中央(株)のほかに、現在、京王電鉄バス(株)、京王バス東(株)、京王バス南(株)、京王バス小金井(株)の4社があり、グループ会社5社の中で、京王バス中央(株)は4番目に設立された。

京王電鉄バス(株)の分社に際し、グループ会社では、京王電鉄バス(株)の組織体制や風土を引き継いだ会社もある中、京王バス東(株)、京王バス中央(株)、京王バス南(株)の3社は、それぞれ独自の組織を新たに構築する形で設立された。

設立の際には、新たに、新しい労働条件で新しい人を雇用することにより体制を整えた。安全、法令順守、運行時間順守等の観点から運行ダイヤの見直しも行われると伴に、営業係(乗務員)への徹底した指導が行われた。現在は、京王電鉄バス(株)本社が、グループ会社5社の統括管理を行い、その下で各社が各営業所に所長、副所長、係長を配置し、運営する体制である。新しい体制下では接客対応をはじめとする営業に関すること全般をその職務とすることから、乗務員の職名を「営業係」としている。

京王電鉄バスグループは、環境への取組みも行っており、アイドリング・ストップ運動の実施、CNGスタンドの営業、環境定期制度などのサービス向上により、公共交通機関の利用促進を図るなど、様々な環境保全活動が行われており、京王バス中央(株)ではコミュニティバス31両のうち、26両にCNG車両が導入されている。

### 3. トップの考え方

昨年6月にそれまでは府中営業所の所長を務めていた現代表取締役が就任した。

「常にお客様が主役です」の京王電鉄バスコンセプトの下、輸送の安全の確保が事業経営の根幹であると認識し、輸送の安全確保に関する主導的な役割を果たしたいと考えている。現場での安全に関する声に耳を傾け、現場の状況を十分に踏まえつつ、社員に対し輸送の安全の確保が最も重要であるという意識の徹底を図っている。

2006年から運輸安全マネジメントを導入し、関係法令及び安全管理規程の順守、内部監査の実施、必要な是正措置、予防措置を講じ、情報連絡体制を整備し、安全に関する情報伝達、共有を図り、教育、研修の具体的計画の策定、適格な実施を行っている。

京王グループ理念としては、以下を掲げている。

私たちは京王グループ、つながりあうすべての人に誠実であり、環境にやさしく、「信頼のトップブランド」になることを目指します。

そして、幸せな暮らしの実現に向かって生活に溶け込むサービスの充実に日々チャレンジします。

京王電鉄バスグループとして、次の企業理念を掲げている。

- 「安全・快適」をはじめとする良質なサービスを提供し、お客様から信頼・満足を得られる企業を目指します。
- 将来にわたって事業利益を確保し、自由競争に勝ち残る企業を目指します。
- 社員にやりがい・誇りが満ちて、職場に活力のある企業を目指します。
- バス事業を中心とした交通事業を通じて、地域社会の発展に貢献します。

これらの理念の下、輸送の安全の確保のため、京王電鉄バスグループ各社において相互協力し、一丸となって輸送の安全性の向上に努めている。

□経営の理念等についてはホームページに記載

[www1.keio-bus.com/outline/page05\\_02.html](http://www1.keio-bus.com/outline/page05_02.html)

#### 4. 組織的安全マネジメントへの取り組み（京王電鉄バスグループ）

##### A) トップのコミットメントと行動

ポイント	CL 項目※
◆京王電鉄バスグループの経営トップである社長は、毎月 18 日と「任意の 1 日」の 2 日間をかけて、グループ会社 5 社全ての営業所に職場巡視を行い、点呼執行状況等を直接確認している。また毎月 18 日には、各社代表取締役が職場巡視を行うほか、役員、本社課長以上の管理職が早朝点呼立ち合いを行っている。	A 1、B 1 、D 4
◆社長、常務などの役員は、事業計画説明などの機会に営業系のリーダークラスで開催されるリーダー会議に出席し、現場の状況把握とコミュニケーションを図っている。	A 1、B 1

※CL 項目とは、組織的安全マネジメントチェックリストの項目である。項目の内容については「7. 組織的安全マネジメント チェックリスト自己評価結果」参照。

- ・京王電鉄バスグループの経営トップである社長は、毎月 18 日と「任意の 1 日」の 2 日間をかけて、グループ会社 5 社全ての営業所に職場巡視を行い、点呼執行状況等を直接確認している。京王電鉄バスグループでの飲酒不祥事を契機に始まったものである。
- ・職場巡視では社長はじめ、各社代表取締役、本社の課長以上、役員クラスが早朝点呼に立ち会っている。
- ・社長、役員クラスが営業系と直接接する機会を設けていることにより、営業系は自分たちを見てくれているという安心感と安全確保に対する意識向上効果が生まれている。今後も継続していく方針である。
- ・このほかに、年に数回中間決算や年度決算報告、新年度計画の説明などの機会にリーダー会議に出席し、現場の状況確認を行うほか、経営状況や安全に関して直接意見交換する場を設けている。
- ・日頃から社長をはじめ本社員による添乗確認も実施している。

##### B) マネジメントシステム

ポイント	CL 項目
◆2006 年の運輸安全マネジメント導入後、安全への取り組みを更に強化し、社員の安全の確保に対しての意識も高まり、事故件数が減る傾向となった。	B 1、B 2 、C 2
◆京王電鉄バス(株)から分社した際、新しい人材を新たな雇用条件で採用し、組織体制を新たに構築した。公開査定制度を採用し評価の公平性、透明性を図ることで、被評価者が目標達成を目指したスキル向上に繋がっている。	B 1、B 4 B 3、A 3 、C 2
◆I プロジェクト(みんなで創る京王バス運動)として投稿箱を設置し、お客様目線の意見を出す投稿制度では、これまでに 1,000 件以上の意見が出され、一つ一つの意見に各担当者が回答している。	B 1、B 2 B 3、B 7 C 2

#### 【人事・マネジメント関連について】

- ・京王電鉄バスグループ 5 社では、環境保全活動の一環として、グリーン経営認証を 2007 年 3 月に取得した。
- ・2006 年に運輸安全マネジメントを導入してから事故件数が減少傾向にある。
- ・運輸安全マネジメントを導入してから、安全に関する取り組みがより強化され、社員の安全の確保の意識も高まった。
- ・内部監査は、前回は一昨年 12 月に実施し、当年度は 2010 年 3 月 3 日に実施し、特に大きな指摘事項はなかった。
- ・京王バス中央では、現在 7 名の運行管理者が在席している。
- ・京王バス東(株)、京王バス中央(株)、京王バス南(株)の 3 社は、年俸制を採用している。
- ・また、1997 年に設立された京王バス東(株)の時から、お客様への接遇をより重視するとともに運転だけでなく営業に関する仕事全てが職域の範囲であるという観点から、バス運転士ではなく「営業係」という職名に変更した。
- ・営業係は正社員と主にコミュニティバス等を乗務する嘱託社員で構成されている。
- ・査定を受ける本人も査定項目、内容がわかるシステムとなっている。そのため、目標達成に向けて、営業係のスキル向上意欲に繋がっている。
- ・賞罰制度として、無事故表彰（団体・個人）、善行表彰等がある。
- ・個人には、無事故手当を支給している。3 カ月ごとに集計、支給している。

#### 【情報の活用会議等について】

- ・以下の社内会議を開催している。
  - (a) 所長会議（月 1 回）
  - (b) 事故防止委員会（年 4 回）
  - (c) 飲酒運転防止委員会（年 2 回）
  - (d) 営業所毎のリーダー会議
- ・営業所における小集団活動の一環として、営業係リーダーが参加する「リーダー会議」が営業所にて行われており、営業所長も出席している。
- ・「リーダー会議」では、日常運営における諸問題のほか、安全目標等に関する各「チーム会議」での討議内容に関する報告及び討議も行われている。
- ・「目標達成計画シート」が各チームで作成、管理されており、掲示板を利用して状況が周知されている。
- ・また、年に 4 回、各チームが現在実施中の取組み内容に関する発表等を行っている。
- ・現場の意見が、チーム会議 → リーダー会議等を通じて本社に上がる体制となっており、ボトムアップの情報伝達として機能している。
- ・「I プロジェクト(みんなで創る京王バス運動)」として投稿箱を設置して、お客様目線での意見を出す制度がある。これまでに京王電鉄バスグループ全体で 1,000 件以上の意見が出されており、営業推進担当が集約した上で、各担当者がひとつひとつの意見に対して回答している。
- ・また社内報「京王タイムズ」に毎回安全に関する記事を掲載し、情報共有に努めている。

- ・営業所の「事故防止委員会」にて作成した事故発生箇所マップを掲示し、全営業係に周知している。
- ・事故が発生した場合は、事故報告書が提出され、月単位でまとめて加害事故、被害事故等に分類集計され、各営業所別に集計されている。

【安全に関する費用について】

- ・京王電鉄バスグループでは、2007年度から2009年度までの3カ年で、全ての路線バスにデジタルタコグラフとドライブレコーダーを装着した。
- ・現在、高速バスにはドライブレコーダーが装着されていないが、導入を検討中である。
- ・運転訓練車を1台所有しており、京王電鉄バスグループとして教育研修に活用している。
- ・運転訓練車は、メーカーとの共同開発であり、デジタコデータによる急発進や急制動の診断分析のほかに、運転中何処を目視で確認しているかを確認するためのアイマークレコーダー等も設備されている。
- ・ドライブレコーダーの情報については、事故防止等のためより積極的に活用していきたいと考えている。

C) 教育訓練制度

ポイント	CL項目
◆メーカーと共同開発した運転技術指導訓練車により、急発進、急制動やアイマークレコーダーによる目線のデータ等を用いながら各営業係(乗務員)への個別指導が行われている。	C 2、C 3 C 4、A 2
◆運転指導には、元現場に勤務していたOBが中心となった教育チームが編成され、指導に当たっている。	C 2、C 3 、B 4
◆5年間の「義務教育制度」があり、1年目はバス運転の心構えから始まり、2年目は乗務を振り返っての教育、3年目にはお年寄りと直接ふれあうことによる学び、4年目は各種トラブルへの対応、5年目に仕上げの研修となっている。	C 1、C 2 C 3、C 4

【採用・新人研修関連について】

- ・採用試験では、適性検査と一般常識、法令等に関する学科試験および実技試験を行い、それに合格した者が2次試験（面接と作文）に進み、これに合格した者が採用される。
- ・最初に19日間の入社時教育が行われ、その後各営業所に配属される。
- ・入社後5年間は毎年集合教育を受ける5年間義務教育制度がある。

【乗務員の研修等について】

- ・運転訓練車、運転適性診断器、ドライブレコーダー、デジタコデータ、事故事例などを活用した営業係（乗務員）教育が実施されている。

- ・5年間の義務教育制度では、入社時教育は19日間のバス運転の心構えから始まる研修、2年目は乗務を振り返っての弱点の把握等に関する教育、3年目には高齢者施設に訪問して直接お年寄りとおふれあうことにより、お年寄りの気持ちに関する学び、4年目は各種トラブルへの対応、5年目に仕上げの研修内容となっている。
- ・入社1年以内の事故比率が高いことから、入社後1年未満のフォロー教育を2008年度より導入した。
- ・5年後の義務教育終了後にも、3年ごとの定期研修が行われている。
- ・各営業所単位での各営業係(乗務員)への安全教育も実施されている。
- ・入社時教育のほかに、定期研修においても運転訓練車を利用した研修が行われている。
- ・運転訓練車では、デジタコデータによる急発進や急制動の診断分析のほかに、アイマークレコーダーによる運転中の目視での確認状況等に関する個別の指導が行われている。
- ・各営業所に1,2名在籍している「教導営業係」が、ほぼ専門に新人の研修に当たっており、教導営業係1名に対して2~3名の新人教育を担当させている。
- ・「営業係作業マニュアル」が作成され、研修に活用されているほか、いつでも各人が参照できるように各営業係に手渡されている。
- ・ドライブレコーダーは、安全教育等に活用されている。
- ・今後は、ヒヤリハット事例のデータを収集するなど、より一層の有効活用に努めていきたい。
- ・デジタルタコグラフによる安全、省エネ運転に関する指導方法は、日々出力される安全運転日報とそれらを1ヶ月単位に集計した月報をもとに、主に各営業所長と副所長が営業係に対し指導を行っている。また、運行管理者も営業係の指導を適宜行っている。
- ・事故惹起者の一部を対象とした有責事故惹起者研修が、年2回開催されている。
- ・有責事故惹起者研修は事故再発防止のために、事故事例研究や運転訓練車に設備された運転適性診断器等を使い自分の弱点を把握する研修内容となっている。
- ・外部研修として、安全運転中央研修所:バス運転者課程4日間(回)を、年間約100名受講させている。
- ・基本接遇用語の実施状況確認のため、モニター添乗員による添乗を行っており、添乗結果に応じた指導を現業管理職が実施している。
- ・その他、適性診断の受診、省エネ講習会の受講、セーフティードライバーコンテストへも参加している。

#### 【外部講習等の活用】

- ・経営トップを含む管理者教育としては、以下の研修を活用している。
  - (a) 経営管理者層の教育として、国土交通省セミナー、NASVA安全マネジメント講習等の受講
  - (b) 運行管理者の教育として、運行管理者一般・基礎講習、適性診断活用講座、安全マネジメント関係講習等の受講
  - (c) 整備管理者の教育として、整備管理者講習、整備主任研修等の受講
  - (d) 団塊世代の技術継承など整備業務改善活動の継続実施

・また、飲酒運転防止教育として、以下の研修を活用している。

- (a) 飲酒週間改善プログラム「セルフケアスクール」の開催
- (b) 飲酒運転防止管理者研修会の受講
- (c) 飲酒運転防止インストラクターの養成

【小集団活動について】

- ・営業係リーダーも参加するリーダー会議が行われており、営業所長も出席している。
- ・現在、京王バス中央には約 10 名の営業係リーダーがおり、各チーム（班）のまとめ役を勤めている。
- ・チームは、現在 7 班で構成されており、1 チーム約 30 名で構成されている。

D) 現場管理

ポイント	CL 項目
◆輸送の安全の確保が最も重要であるという意識を徹底すると共に、安全に関する取り組み状況、現場における安全に関する声を把握するために、社長をはじめとする管理者が現場を定期的に巡視している。	D 4、D 5 A 1、B 1

【日常業務等について】

- ・輸送の安全の確保が最も重要であるという意識を徹底すると共に、安全に関する取り組み状況、現場における安全に関する声を把握するために、社長をはじめとする管理者が現場を定期的に巡視している。
  - (a) 年 4 回の安全運動の実施
    - ア. 春の交通安全運動の実施
    - イ. 夏の事故防止運動
    - ウ. 秋の全国交通安全運動
    - エ. 年末年始自動車輸送安全総点検
  - (b) 社長による職場巡視(毎月 18 日ほか)
  - (c) 安全統括管理者による職場巡視(年 4 回:交通運動期間中)
  - (d) 役員による経営計画説明会開催(京王電鉄バスグループの組合、現業管理職、営業係(乗務員)リーダーに対して)
  - (e) 管理職による早期点呼、ターミナル立会の実施(毎月 18 日)
  - (f) 本社員による交差点立会の実施(毎月 13 日)
  - (g) 社長以下本社員による添乗の実施(年 4 回:安全運動期間中)



## 5. 顧客や取引先との関係

お客様からの直接の御意見はホームページ等から収集するとともに、営業係(乗務員)休憩室にお客様目線での意見を出すための意見箱が設置されており、これまで数多くの意見が出され、一つ一つに各担当を通じて回答している。そうしたことが営業係(乗務員)にお客様目線に立った業務への取組みを浸透させ、安全運行の確保にも役立っている。

また、環境保全のために CNG 車両を導入しており、それらの車両は「ちゅうバス」、「CoCoバス」、「ぶんバス」の愛称で地域住民に親しまれているコミュニティバスで運行されている。このようにバス事業を通じた地域の発展への貢献、環境保全に配慮した事業活動が行われている。

## 6. 安全に関係する実績データ

### 【交通事故発生率】

現在、全体の事故惹起者のうち入社後 1~2 年以内の者の割合が高い。この為、2008 年度から入社 1 年以内の営業係に対する重点的な指導を行っている。(入社後フォローアップ研修)

コンパウンド等で簡単に手直しできる擦り傷等は事故報告書としては上がらないため、事故データとしてはカウントしておらず、基本的に補修、修理等の費用の発生したものを事故件数としてカウントしている。

年	事故件数(件)	走行距離 約(千 km)	交通事故発生率(件/10 万 km)
平成 21 年度	43 件	4,857 千 km	0.885 件/10 万 km
平成 20 年度	40 件	5,008 千 km	0.799 件/10 万 km
平成 19 年度	44 件	4,216 千 km	1.044 件/10 万 km
平成 18 年度	45 件	3,479 千 km	1.293 件/10 万 km

計算式：事故件数÷走行距離×10 万 km

7. 組織的安全マネジメント チェックリスト自己評価結果

区分		項目		評価
A	トップのコミットメントと行動	A 1	行動見本（現場巡回）	イ
		A 2	経費予算配分	ウ
		A 3	賞罰制度	ウ
B	マネジメントシステム	B 1	理念・行動指針	ア
		B 2	マネジメントサイクル	イ
		B 3	情報管理のしくみ（安全の実績・情報）	イ
		B 4	人員配置と異動	ウ
		B 5	管理者育成	イ
		B 6	協力業者管理（関連会社等）	ウ
		B 7	お客様の評価	イ
C	教育訓練制度	C 1	採用・新人教育	イ
		C 2	運転スキル、作業スキル訓練	イ
		C 3	事故分析、再発防止教育	ウ
		C 4	KYT、ヒヤリハット	イ
		C 5	小集団活動（班活動）	ウ
D	現場管理	D 1	ルールの順守	イ
		D 2	日常点検・整備	イ
		D 3	整理、整頓、洗車、清掃	ア
		D 4	現場巡回指導（街頭指導）	イ
		D 5	点呼・朝礼	イ
		D 6	身だしなみ、服装	ウ
		D 7	挨拶、返事、報告	ア
		D 8	時間管理、生活管理	イ
		D 9	協力意識	イ

※組織的安全マネジメントのチェックリスト（詳細）は、国土交通政策研究所のホームページから入手可能。検索エンジンで「国土交通政策研究所」と入力。“●研究会・アドバイザー会議等”のページにある“運輸企業のための組織的安全マネジメント手法に関する調査”「第3回アドバイザー会議資料（平成21年3月17日）資料3」の郵送調査票参照。



写真1  
車庫風景



写真2  
車両風景



写真3  
事務所内点呼場所風景



写真4  
京王電鉄バスグループ  
企業理念車庫出入口



写真5  
事務所内掲示風景  
京王グループ理念



写真6  
事務所内掲示風景  
京王鉄バス中央(株)  
環境基本方針



写真7  
事務所内掲示風景  
京王電鉄バスコンセプト

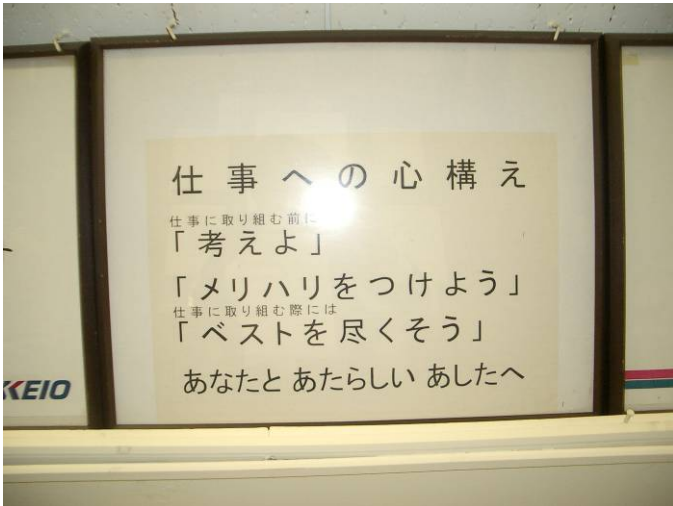


写真8  
事務所内掲示風景  
仕事への心構え



写真9  
事務所内掲示風景  
府中営業所の重点施策



写真 1 0  
 事務所内設置の投稿箱  
 「Iプロジェクト」  
 みんなで創る京王バス



写真 1 1  
 事務所内掲示新聞  
 事故関連各種情報



写真 1 2  
 事務所内掲示風景  
 事故防新聞



写真 1 3  
事務所内掲示風景  
事故関連資料



写真 1 4  
事務所内掲示風景  
運行経路別の安全情報



写真 1 5  
事務所内掲示風景  
運行経路別ヒヤリ・ハットマップ



写真16  
事務所内掲示風景  
運行経路別ヒヤリ・ハットマップ



写真17  
事務所内掲示風景  
一置施設における運行注意事項



写真18  
事務所内掲示風景  
飲酒防止関係





写真 1 9  
事務所内掲示風景  
営業関係



写真 2 0  
事務所内掲示風景  
各班の活動状況

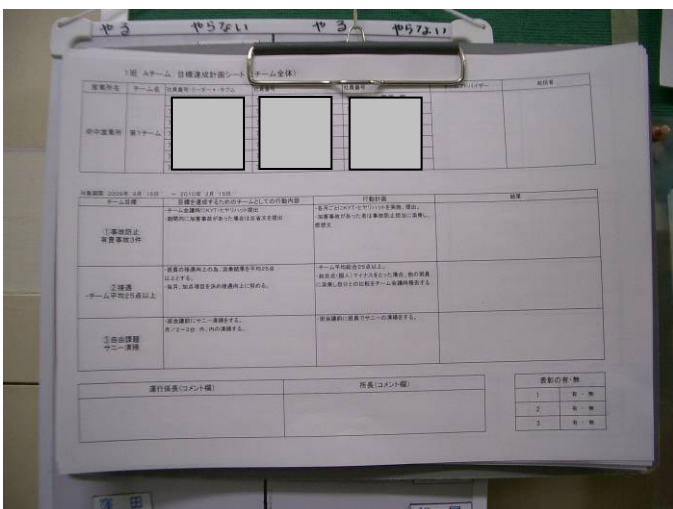


写真 2 1  
事務所内掲示風景  
各班チームの活動状況

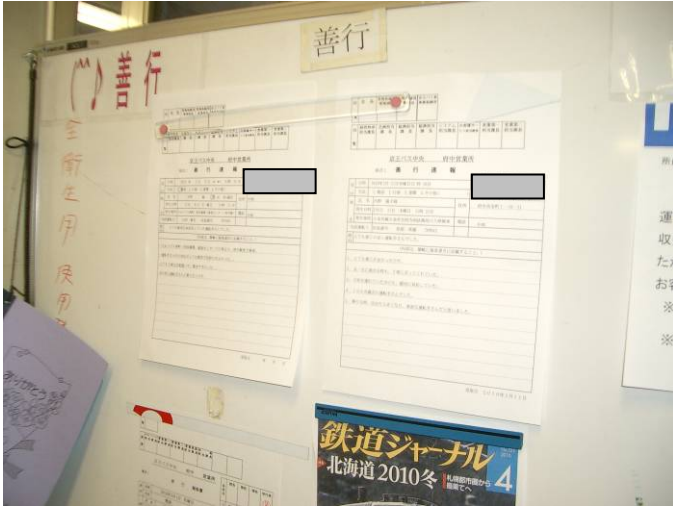


写真 2 2  
事務所内掲示風景  
運行速報(お客様からのお礼等)

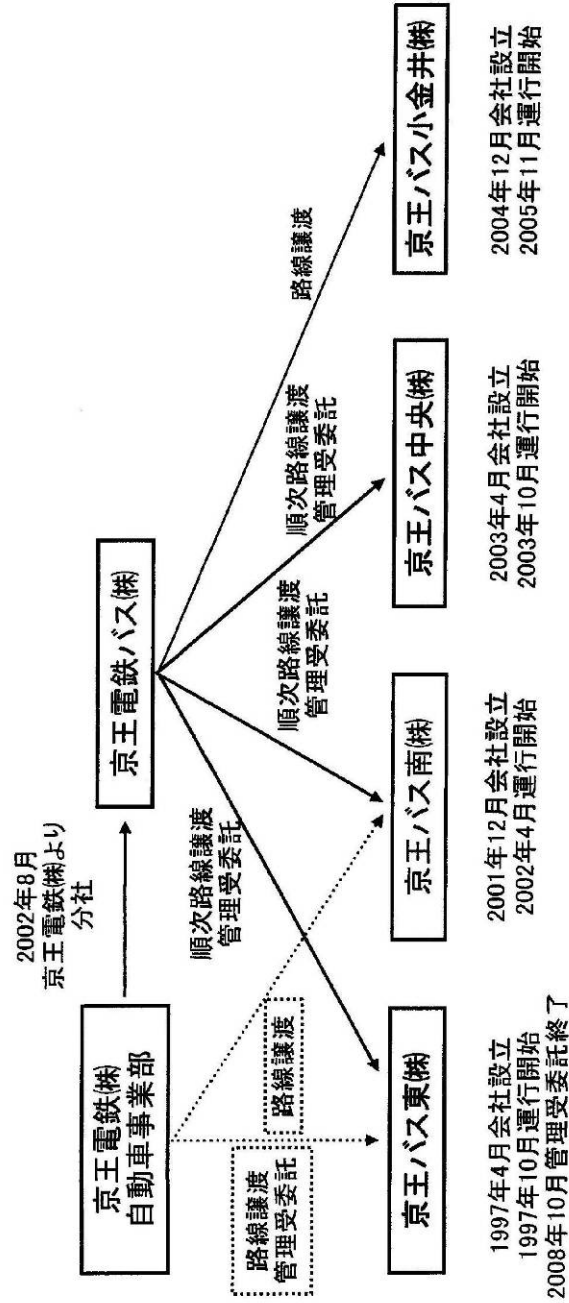


写真 2 3  
事務所内掲示風景  
社員等からの標語



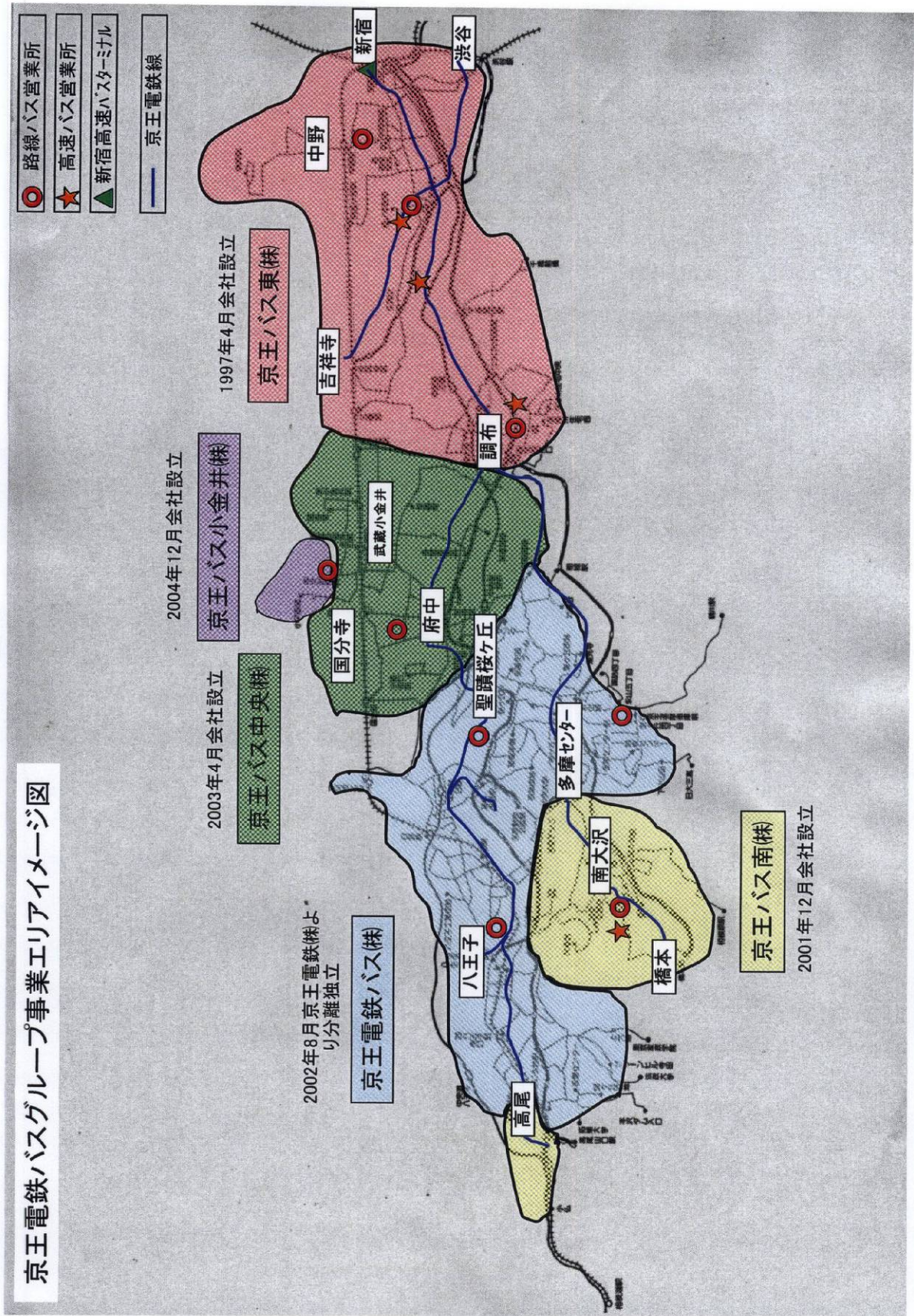
写真 2 4  
事務所内掲示風景  
階段への注意事項等の掲示

京王電鉄バスグループ関係図

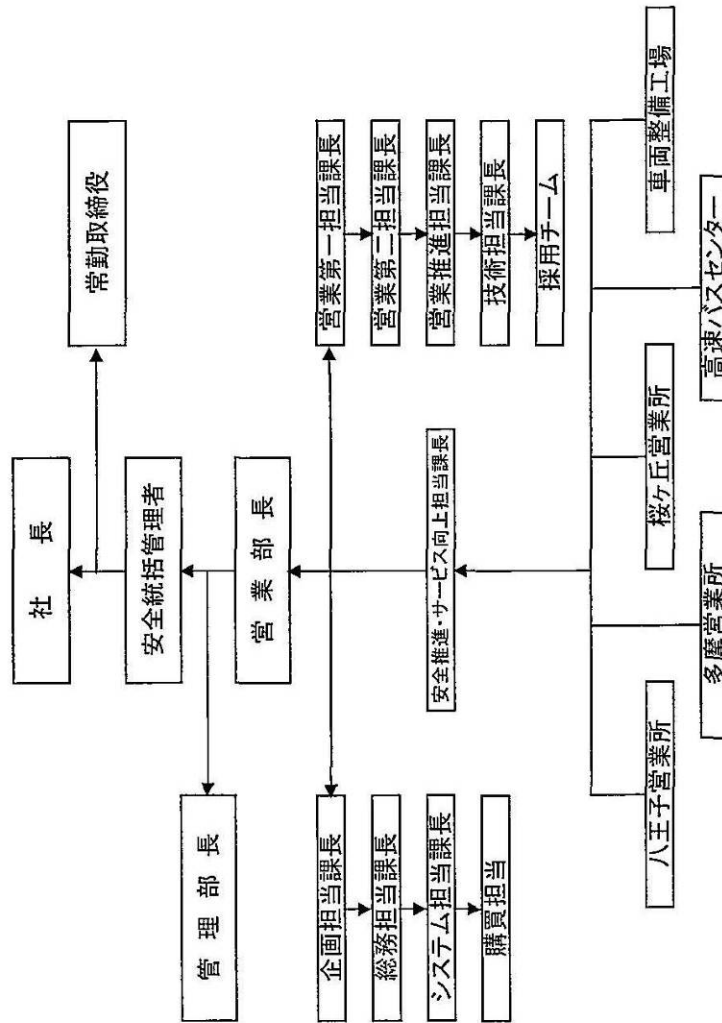


※ 京王電鉄バス(株)から京王バス東(株)、京王バス南(株)、京王バス中央(株)への路線の譲渡は、京王電鉄バス(株)の退職者数に応じて行う

帳票類 2 : 京王電鉄バスグループ事業エリアイメージ図



重大事故、災害等に関する報告連絡体制(京王電鉄バス)



★Iプロジェクト 投稿用紙★

# 😊 みんなで創る京王バス 😊

あなたの気付いたことを教えてください。

お客様の会話で気になったこと、新しくできた建物やマンション、いつもお客様から聞かれること、行列しているお店、おススメの場所、こんなサービスあったらいいな、ちょっと気になること、などなど。みなさんの声(=お客様の声)をお待ちしています！

<p>●投稿内容にチェック☑してください (複数もOK)</p> <p> <input type="checkbox"/> お客様の様子    <input type="checkbox"/> 環境(建物・人通りなど)の変化    <input type="checkbox"/> いつもと違ったこと  <input type="checkbox"/> いつも思うこと    <input type="checkbox"/> よく聞かれること(場所・店など)    <input type="checkbox"/> 困ったこと(自分が、お客様が)  <input type="checkbox"/> おススメの店・場所    <input type="checkbox"/> サービスなどのアイデア    <input type="checkbox"/> その他(どれに当てはまるか分からない)         </p>		
<p>タイトル</p>		
<p>具体的な内容(イラストや地図を交えてもOK)</p>		

氏名		社員番号	
営業所	府中	投稿日	年 月 日

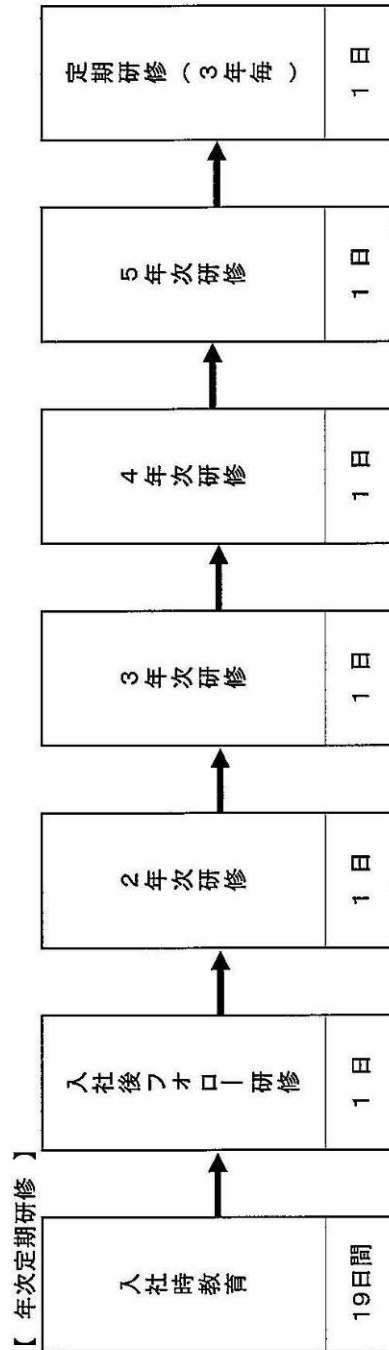
ありがとうございました。他にも気付いたことがあれば、どしどし投稿してください。

**輸送の安全に関する教育および研修計画**

京王電鉄バスグループの教育については、本社安全推進・サービス向上担当に研修スタッフを配し、下記の集合教育を運転技術訓練車、運転適正診断器等を活用しながら行っております。

2008年度においては、入社時教育を18日間から19日間に延長し、また入社後1年未満を対象としたフォロー研修を新設したほか、有責事故研修を年3回から、年6回に増やしました。

2009年度は、外部研修として安全運転中央研修所のバス運転者課程(4日間)コースの受講回数を大幅に増やし、約100名弱が受講する計画です。



※2008年度より実施

【 随時研修 】

有責事故研修 (年6回)	2日間/回
--------------	-------

【 外部研修 】

安全運転中央研修所(年10回)	4日間/回
-----------------	-------

以上